

日本中学校道徳教科書におけるマイノリティー表象の傾向と課題

WANG YIREN (明治大学大学院生)

研究背景

近年、日本社会における多様性理解とインクルーシブな価値観の形成が求められており、学校教育においても「共生社会の形成」や「人権意識の涵養」が重要な教育目標として位置づけられている（中央教育審議会「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」2012年ほか）。特に、2018年度より道徳科が「特別の教科」として教科化されたことにより、検定教科書を通じた価値観形成の影響力は一層強まっている。

文部科学省は、マイノリティーへの理解促進に関する複数の政策を打ち出している。たとえば『生徒指導提要（2022年改訂）』では性的マイノリティーの尊重と支援について明記され、また2023年に施行された「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する法律」に基づき、学校現場における対応の必要性が強調されている。さらに、外国人児童生徒や少数民族への教育的配慮についても有識者会議（外国人児童生徒等の教育の充実に関する有識者会議・アイヌ政策推進会議）を通じて継続的に検討が行われている。

このような政策的背景のもと、道徳教科書におけるマイノリティーの描写は徐々に増加しつつあるが、その取り上げ方には依然として課題が多く残されている。たとえば松尾（2023）は、2018～2021年度検定の教科書を分析し、「性的マイノリティー」に関する記述が限定的であり、小中学校では「資料」や「発展的学習」といったかたちで副次的に扱われることが多いため、系統的な学びに至っていないと指摘している。また、記述が「悩む当事者像」に偏り、異性愛とのバランスを欠いている点についても問題提起がなされている。

さらに、藤岡（2023）は「特別の教科 道徳」の内容分析において、ジェンダーの視点から教科書教材を検討し、多くの教材が伝統的な性別役割を強化する内容であること、LGBTQに関する記述がごくわずかであり、国際的な教育水準と乖離していることを明らかにしている。また、主人公の性別バランスにも偏りがあり、特に女性像が家庭や奉仕に限定されやすい点に課題がある点を批判的に指摘している。

加えて、青木ら（2021）は障害をテーマとする教材が「感動的」「努力の物語」として描かれがちであること、河野辺（2023）は少数民族（アイヌ）の描写が「文化尊重」「勇気」など肯定的価値に偏る傾向があると指摘している。このように、マイノリティーの描写は量的に増加していても、その「質」や「多様性」は十分とはいえず、再現性のある理解を妨げる要因となり得る。

研究目的

日本の中学校道徳教科書における「マイノリティー（少数者）」の取り上げ方を、量的・質的に分析することである。具体的には、7つの主要な出版社（東京書籍、光村図書、教育出版、日本教科書、日本文教出版、学研教育みらい、あかつき教育図書）が発行する1～3年生の道徳教科書を対象に、マイノリティーに関する教材の出現頻度およびそれらの内容の傾向を明らかにする。

分析対象: 東京書籍、光村図書、教育出版、日本教科書、日本文教出版、学研教育みらい、あかつき教育図書、検定を経た7社の中学校道徳教科書21冊×2（令和2年度版および令和6年度版）。

分析手法：「障害」「外国」「多文化」「LGBTQ」「アイヌ」などマイノリティに関連する様々なキーワードを基準に、関連教材を抽出。ページ数と内容を記録。
さらに、描写の特徴（努力・感動物語化、同化の強調、文化尊重など）について質的分析を行う。

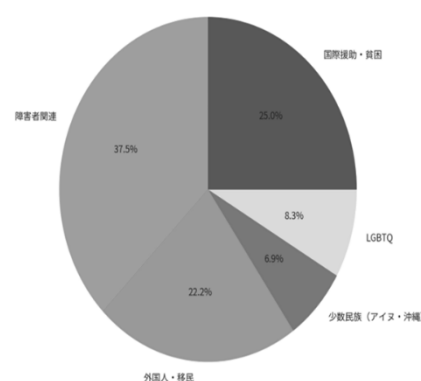
量的分析

定量結果の概要

出現頻度の高い順に以下の傾向が確認された：

- ・ **障害者関連**：最も頻度が高い（例：車いすテニス選手、聴覚障害者、盲目の教師など）
- ・ **外国人・移民**：比較的多く登場（例：中国人、フィリピン人、アフリカ出身者、異文化交流など）
- ・ **LGBTQ 関連**：極めて少なく、一部の出版社は「積極的に可視化」
- ・ **少数民族（アイヌ・沖縄）**：登場頻度は少なめ
- ・ **貧困・国際援助**：教材の背景として頻出するが、マイノリティーとしての焦点は希薄

マイノリティー種類別出現頻度（7社合計）



出版社	総ページ数	障害者関連	外国人・移民	少数民族	LGBTQ関連	貧困・国際援助	マイノリティー関連ページ数
東京書籍	592	16	10	0	4	9	39
光村図書	568	20	15	8	4	10	57
教育出版	584	23	9	4	0	18	54
日本教科書	576	25	10	0	4	10	49
日本文教出版	552	22	13	8	4	15	62
学研	552	20	10	0	8	15	63
あかつき教育	508	15	10	0	0	10	35

質的分析

障害者

全出版社で頻繁に登場

「努力」「困難を乗り越える」物語
パラリンピック選手などの成功例が中心
感動型・支援型の描写が多い

外国人・移民

「異文化理解」や国際交流の文脈で登場
“よい外国人”像（努力・同化・友情）
在日韓国・朝鮮人はほとんど取り上げられない

少数民族（アイヌ・沖縄）

教材数は少ないが一定数存在
文化の伝承や誇りをテーマとする
→ いわゆる「同化」に対する葛藤やアンヴィバレンスにたいする記述は皆無

LGBTQ / 性的マイノリティー

取り上げは非常に限定的
「悩む像」が中心
異性愛とのバランスが取れていない（異性愛＝標準 / LGBTQ＝特例）
“理解を深める”というより「一部の特例」として扱われる
学研・光村図書・東京書籍：「性的多様性」「LGBTQ」という言葉を明示的に導入

日本文教出版：逆に、令和2年検定版であった「さまざまな性」の直接的な解説を削除。

その他（国際支援、戦争、病気など）

豊富に存在

異文化や国際ボランティア、医療援助など広義の「人道主義」の文脈で登場

善意や博愛を学ぶ教材として多用される

課題

多くは「困難を乗り越える」「感動を与える」タイプの物語であり

主人公が「努力するマイノリティー」として描かれる傾向

「感動ポルノ」とは、障害者やマイノリティーの姿を、社会的理解の対象ではなく「感動を与える存在」として描くことを指す。（「感動ポルノ」cf. 好井 2022）

文化的多様性は外国人を通じて紹介されることが多いが、日本国内の少数民族（アイヌ・沖縄など）への言及は相対的に少ない

障害に関する内容は比較的肯定的に描かれるが、パラリンピックで活躍するスポーツ選手など「特別な存在」に偏る傾向がある

LGBTQに関する内容はほとんどなく、保守的な側面が見られる

結論

1. 可視化の進展と拡大

多くの教科書において、マイノリティーに関する教材が一定の割合で掲載されている。

特に「障害者」や「外国人」については、各出版社の道徳教科書において一定数取り上げられており本研究の量的分析結果からも、全出版社において5件以上の関連教材が確認された。これは青木ら（2021）の指摘とも一致しており、これらのマイノリティーに関する可視化の意識が、近年全体的に高まりつつあることが示唆される。

教科書上でマイノリティーは「見える存在」になりつつある。

2. 表象の“質”に課題あり

多くの教材は「成功者」「支援された人」「感動を与える存在」としてマイノリティーを描いている。

マイノリティー教育の課題は教材に登場する事例の「量」そのものではなく、マイノリティーがどのような価値観や語りの中で描かれているかという「質的なあり方」にあるという点である。

3. 取り上げの偏在（見られる・見えないマイノリティー）

障害者・外国人・貧困はある程度描写されているが、LGBTQ、少数民族、在日外国人等については依然として取り上げが少ない。

一部のマイノリティーに焦点が集中しており、教育としての「バランス」に課題がある。

参考文献

- 青木利樹・田中亮・奥住秀之・大井雄平（2021）「小学校・中学校における『特別の教科 道徳』の教材としての障害—障害と内容項目の関連に着目して—」『教育研究実践報告誌』4（2），pp.19-26
- 河野辺貴則（2023）「人権課題『アイヌの人々』を題材にした道徳教材に関する傾向と特色 ——道徳科教科書に焦点をあてて——」『四国大学紀要 A』60，pp.1-11
- 木村季美子（2023）「高校国語科におけるセクシュアル・マイノリティ教材の授業の提案—谷村志穂『雪ウサギ』を用いて—」『國文學』40，pp.83-97
- 藤岡秀樹（2023）「『特別の教科 道徳』の教科書の内容分析 —ジェンダーの視点から—」『女性歴史文化研究所紀要』31，pp.57-67
- 松尾由希子（2023）「小学校・中学校・高等学校の教科書にみる性の多様性に関する記載の特徴と課題 —2018年度～2021年度検定教科書の分析より—」『静岡大学教育研究』19，pp.1-18
- 好井裕明（2022）『「感動ポルノ」と向き合う——障害者像にひそむ差別と排除』岩波書店.
- 好井裕明（2018）「文化・メディアにおける障害者表象をめぐって——特集“感動ポルノ”：障害者は健常者に感動を与える存在か」『福祉労働』第161号，現代書館.
- 文部科学省（2017）『中学校学習指導要領（平成29年告示）』
- 文部科学省（2022）『生徒指導提要（令和4年改訂）』

使用教科書

- あかつき教育図書（2020）『中学生の道徳 1・2・3年』
- あかつき教育図書（2024）『中学生の道徳 1・2・3年』
- 東京書籍（2020）『新訂 新しい道徳 1・2・3年』
- 東京書籍（2024）『新訂 新しい道徳 1・2・3年』
- 光村図書出版（2020）『中学道徳 きみが いちばんひかるとき 1・2・3年』
- 光村図書出版（2024）『中学道徳 きみが いちばんひかるとき 1・2・3年』
- 教育出版（2020）『中学道徳 とびだそう未来へ 1・2・3年』
- 教育出版（2024）『中学道徳 とびだそう未来へ 1・2・3年』
- 日本文教出版（2020）『中学道徳 あすを生きる 1・2・3年』
- 日本文教出版（2024）『中学道徳 あすを生きる 1・2・3年』
- 学研教育みらい（2020）『新・中学生の道徳 明日への扉 1・2・3年』
- 学研教育みらい（2024）『新・中学生の道徳 明日への扉 1・2・3年』
- 日本教科書（2020）『ともに生きる 中学生の道徳 1・2・3年』
- 日本教科書（2024）『ともに生きる 中学生の道徳 1・2・3年』